

## 第2回 秋田市地球温暖化対策実行計画策定等協議会議事要旨

- 1 開催の日時：平成27年7月24日（金） 14：00～16：00
- 2 開催の場所：秋田市環境部2F大会議室
- 3 委員の定数：15人
- 4 出席委員：13人
- 5 議 事
  - (1) 秋田市地球温暖化対策実行計画について
    - ア 現行計画における取組（リーディング・プロジェクト）の検証
    - イ 実行計画見直しの作業内容について
    - ウ 国および秋田市の温室効果ガス排出実績と将来推計に基づく秋田市の目標（案）について
  - (2) その他

### 6 議事

#### (1) 秋田市地球温暖化対策実行計画について

##### ア 現行計画における取組（リーディング・プロジェクト）の検証

委員	資料1の1あきたスマートシティ・プロジェクト(2)地域ESCO事業のところ、274t-CO2の後に一部1(1)と重複と記載されているが、(1)に含まれているのか。
事務局	(1)は、「スマートシティ情報統合管理基盤」市有10施設で算出したCO2削減量を示している。次に、(2)は(1)の10施設のうち、市有4施設の電力、都市ガス、灯油、それぞれの部門におけるCO2削減量を示しており、4施設の電力量のみが重複することとなる。
委員	了解した。 次に、3の市民参加型共同発電施設等建設プロジェクトの記載に、メガソーラー5,644kwとあるがこれは設備能力を指したもののか、それとも年間の発電量を指したもののなのか。
事務局	記載数値は、設備能力を指している。
委員	現行計画の中で、CO2の削減目標は示しているのか。

- 事務局 現行計画の策定の中でCO<sub>2</sub>削減目標を定められれば良かったが、方向性を示したに過ぎない。  
今回改定する実行計画の中で、必要であれば削減目標を示して行ければ良いと考えている。
- 事務局 参考までにこれらの削減数値を併せてると34,229t-CO<sub>2</sub>となる。これは、約5700世帯に相当し、秋田市内では新屋地区全体のCO<sub>2</sub>削減につながったことに相当する。  
また、2011年度における市全体に占める温暖化ガスの純排出量は349万5千tであり、これの概ね1パーセントに相当する。
- 委員 今回の実行計画の見直しに際し、あきたスマートシティ・プロジェクトの考え方は継承されるのか。
- 事務局 現行計画は、平成28年3月を以て一つの区切りを迎えることとなるが、現行計画が終了したからといって全てが終了するわけではなく、計画の中で更に継続するものもあれば、これは秋田市に馴染まなかったというものについては区切りを迎えることとするものもある。今回、改定する計画では、現行計画にある6つのリーディングプロジェクトから、創エネ、省エネ、ライフスタイル変革の3つの柱に再編成をしていきたいと考えている。また、現行計画は、どちらかと言えば中央資本に寄っていたが、今後は、地元の事業者と地に足の着いたものにしていきたいと考えている。
- 委員 個人的には、当初からあきたスマートシティについては、厳しい見方をしていた。そのため、現行計画が出来なかったからといってやめるのではなく、地球温暖化対策だからといって環境部だけで考えず、建設部、都市整備部、商工部の問題として全庁的な問題として捉えるべきである。
- 事務局 当初、あきたスマートシティについては、地域の資源をいかにスマートにつまり賢く使っていくかという視点があり、9つあるプロジェクトの中には地球温暖化対策に関係ないグリーンツーリズムも含まれている。  
しかし、そうは言いながらもこの9つのプロジェクトの中には環境施策も多く含まれている。  
先ほどから申し上げているが、今後、改定する計画については、3本の柱を整理して進めていきたいと考えている。
- 委員 このことは(9)にも関係するが、先ほど事務局から手を広げ過ぎたという発言も見られたが、そうではなく無理せずできること、例えばゴミ問

題、再生可能エネルギーのノウハウを秋田市から発展途上国に情報発信していくという意味で、(9)は残してみても如何か。

事務局 頂いたご意見については、ライフスタイルに関わるほか、環境学習など環境全般に関わってくることなので、今回提示した本原案でカバーできると考えている。

#### イ 実行計画見直しの作業内容について

委員 前回、1回目の協議会の中で、現行計画の見直しの概略の中で、現行計画では気候変動対策が盛り込まれていなかったため、今回、盛り込めるとあったが、そのとおりでよろしいか？

事務局 前回、説明不足だったが、もともと現行計画の中でもはっきりではないものの、気候変動対策は盛り込まれていた。  
今後の見直し計画の中では、きっちり盛り込んでいきたい。

委員 平成14年3月に策定した新エネルギービジョンを読ませて頂いたが、その当時としては良く出来たものと認識している。  
ただ、この数値をそのまま取り込むのか、それとも新たな数値を取り入れるのか。

事務局 新エネルギービジョンについては、平成14年度策定以降、時間が経過していることから、新エネルギービジョンの数値をそのまま取り込むのではなく、今回見直しの中の創エネの部分の中で柔軟に取り込んでいきたいと考えている。

委員 計画の作りっぱなしではまずい。随時、5年に1回程度計画の見直しをしていかななくてはいけないのではないか。

事務局 新エネルギービジョンは、当時の環境企画課で策定したもので、策定当時は地球温暖化対策という視点はなく、新エネルギーの推進といったところが、地球温暖化への対応として盛り込まれている。その後、温暖化実行計画を策定するにあたり、この中に省エネ、新エネを盛り込まれ、現在に至っている。

また、実行計画5章のロードマップでは、新エネルギーの導入やどの程度CO<sub>2</sub>を削減しているのかを見せるような作りになっていることから、決して計画の作りっぱなしにはなっていないことをご理解頂きたい。

- 事務局 実行計画のP 7 1に“新エネルギーの導入促進”という項目があり、これは新エネルギービジョンの考え方を盛り込んでいるものである。今回の見直しでも、3つの柱の一つである“創エネ”の中で反映させていきたい。
- 委員 今回の見直しの進め方に異論はないが、今、この時点でこのままの現行施策でいくべきと個人的には思っているので、基本方針、基本施策、個別施策はそのまま残して欲しい。  
ただ、個別施策については、皆がわかるような記載にして頂きたい。我々も施策を作る立場上、この文言では正直わかりにくい。
- 事務局 策定中である総合計画では、5つの戦略を掲げており、これは環境施策に関わるものもあり、現在、その仕分けを含め施策を進めている。  
当然、施策を戦略に盛り込む際は、市民に理解されるような文言にするよう努めていきたいと考えている。
- 委員 “低炭素型まちづくりの推進”で基本施策の2－1環境負荷の少ないまちづくりという視点は是非盛り込んで頂きたい。
- 事務局 了解した。
- 委員 資料2の第1章の6計画の対象範囲の“NPO法人等の団体の役割を明確化と第6章の1の計画の推進体制”NPO法人等の団体を追加”、加えて前回の会議資料にある私共秋田市地球温暖化防止活動推進センターと推進員との役割について、何か方針的なものがあればお教え頂きたい。
- 事務局 実行計画のP 1 7にあるような、市民の役割、事業者の役割、市の役割というような形で、今後、NPOの取組についても盛り込んでいきたい。  
また、実行計画P 9 3にあるような計画の推進の中でも、NPOの推進体制を盛り込んでいきたいと考えている。
- 委員 現在、47都道府県センターのほか、8つの市のセンターが現在存在する。そのうちの一つのセンターで、川崎市のセンターと推進員がとても活発に取り組みをしていて、私共とよく情報交換を行っている。  
その情報交換の中で、川崎市では川崎市地球温暖化対策推進基本計画があり、この中では、川崎市センターの役割や、推進員としての役割、市民の温暖化対策に対する行動を促す普及啓発がきっちり盛り込まれているようである。一度、参考としてご覧になっては如何か。

委員	<p>現在、県でも実行計画の見直しを検討しているが、国の動きとして、COP21が終了してからの見直ししていくようである。県も国と足並みを揃え、次年度以降の見直しを予定しているが、市は今後、改訂する意向はあるのか。</p> <p>2つ目として実行計画の方針の中で、市域における気候変動の動きは記載することとなるのか。</p>
事務局	<p>家庭部門高効率給湯器の導入や新築住宅における省エネの推進等、国の方では進めていきたいと草案の中でも記されている。</p> <p>このことから、実行計画に重なることはあってもバッティングすることはないと認識しており、あえて改訂までして、国を追いかける必要はないと考えている。</p> <p>次に、気候変動については、サンゴの白色化等の問題が新聞報道等で取り上げられているが、本市域内では特段問題になっていない。仮に記載する必要があるとすれば情報収集に努める等の記載くらいではなかろうか（例えば、農林部、市保健所との連携を密にしていく等）。</p>

ウ 国および秋田市の温室効果ガス排出実績と将来推計に基づく秋田市の目標（案）について

委員	<p>秋田市の将来人口推計は把握されているのか。</p>
事務局	<p>将来人口推計については、外部委託し推計を行っている。</p> <p>その手法として、本市の各種統計調査の結果を用いて推計を行っており、元となる人口については、厚生労働省が行う人口動態調査を踏まえている。</p>
委員	<p>個人的な意見としては、非常に長期目標はわかりにくく、思ったほど削減に至っていないように思われる。</p> <p>例えば、市としての普及啓発だとかはわかりやすいが、国全体の目標となると途端にわかりにくくなり、正直、つらいところがある。</p>
事務局	<p>国としても出来る目標を掲げているため、実情は思ったほど達成できていないのが現状である。</p>
委員	<p>たしかに、数値を出した方が良いのか悩ましいところではある。資料3で示される部分を言葉で表す等柔軟に対応された方が良いのかもしれない。</p>

- 委員 産業に関して言えば、秋田市は無理に温室効果ガス削減を図ると何かの作業をやめなければならなくなり、余り馴染まないように感じる。
- 事務局 この件については、エネルギーを如何に効率よく使うかによるところがあると思うので、そういった部分の削減は重要になると考える。
- 委員 施策をただ並べるだけでなく、選択と集中をし、表現の仕方を検討されては如何か。
- 事務局 貴重なご意見として、今後の策定作業の参考とさせて頂く。